

<p>学校教育目標</p>	<p>「自己を高めよう」をめざし、 知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる ＜めざす生徒像＞ 「～人のために～ 一生懸命やるとってかっこいいと思える 生徒の育成」 真剣に学び合う生徒、けじめのある行 動をする生徒、自ら心と体を鍛える生徒</p>	<p>経営理念 使命・経営展望</p>	<p>【使 命】自立した大人になるための基礎づくり 【経営展望】南中文化の向上 －学校に協力的な南中学区の地域文化を基盤に、生徒の 将来の自立に向け価値のある生徒文化・教師文化の質 の向上を目指す。－</p>
---------------	---	------------------------------	--

評価計画（中期経営目標を設定して5年目）【新規☆】

<p>経営展望（中期経営目標） 現状（進捗状況）と今年度の位置付け</p>	<p>a</p>	<p>・公開授業での「授業だより」の執筆者を中堅教員が担うことや、全教員が参加する体制で道徳の「授業づくり」を行ったことで、中堅教員に授業研究における推進者としての自覚と責任が生まれた。本校で力をつけた教員が、新たに市の教科等指導員となり、広い視野で教科指導のあり方を考える機会が生まれている。 ・中堅教員の層が厚くなったことで、教員同士が互いに学び合う南中の教師文化の中で新任、若手教員を育てていく余裕が生まれてきている。市教委嘱託研究指定の1年目にあたる本年度は、教員同士が学び合いながら研究を推進していくことができる組織・体制を構築する1年とする。</p>
	<p>b</p>	<p>・学校行事、学年行事において、学級担任がリーダーを育て、支えることでできおり、生徒の前向きな姿が見られる。委員会や係、当番活動など、日常の学校生活においても学級のすべての生徒が帰属意識、有用感を感じられる学級集団づくりを進めていく。</p>
	<p>c</p>	<p>・学校行事や生徒会活動を通じて集団づくりに取り組んできたことにより、「生徒自治」は成熟期を迎えつつあり、本質的な部分が明確になってきた。これまでの取組を振り返り、生徒自治のさらなる向上を目指して、内容を精選し質を高めていく。 ・「生徒自治」を目指した教育活動を推進してきたことにより、生徒会行事や委員会活動において生徒会役員や委員会の生徒が中心となって上級生が下級生に生徒文化を伝えていくことができるようになってきた。指導する教員が「ファシリテーター」としての役割を自覚し、「集団の中で生徒自身が課題を発見し、解決する力」を伸ばしていく。</p>
	<p>d</p>	<p>・南部まちづくり協議会を中心とした地域からの「健全育成・リーダー養成」に関する支援・協力の輪が、高浜市ロータリークラブ・高取まちづくり協議会へと広がり、協力が得られる地域基盤に厚みができてきた。教員、生徒の側から地域や関係団体に積極的にはたらきかけ、関わりをもつことを目指す。</p>
	<p>☆ ☆</p>	<p>・通級指導の開始、ポルトガル語を話せるSSの配置など、特別な支援を要する生徒に対する指導・支援体制が整いつつある。効果を検証しながらよりよい指導・支援のあり方を模索していく1年とする。 ・朝部活がなくなったことにより若干の余裕が生まれたものの、勤務時間外労働の月80時間超、100時間超が無ならない現状がある。勤務時間管理については時間外勤務の数値目標が示された。校内に事務長を長とする「業務改善推進委員会」を立ち上げ、勤務における無駄を減らす具体的な方策を示し、取組を進めていく。</p>

学校経営の軸に対する考え方

<p>a 教師の授業力（教師→教師）</p>	<p>公開授業と授業だよりの執筆、全体授業と協議会、論文の執筆と読み合わせ会を通して、教科や学年の枠を超えて教職員同士が「授業づくり」「単元づくり」について、学び合える教師集団を目指す場を大切にする。ベテラン・中堅教師の知識と技が、若手教師に受け継がれていく南中の教師文化を創造・継承しつつ、新たな役割の中でそれぞれの教員が力を発揮できるようにする。</p>
<p>b 学級経営力（教師→生徒）</p>	<p>どんなに優れた授業実践をしても、学習集団が未熟であれば、「深い学び」となることは期待できない。また生徒に健全な社会性を育むためにも、生徒たちの集団づくり・仲間づくりに対して的確な指導支援ができるよう、担任がファシリテーターとしての役割を意識しながらリーダーシップを発揮し「学級経営力」を向上させたい。上級生ほど、自分たちの手で学級が運営できるような学級文化を目指す。</p>
<p>c 集団の中で、生徒自身が課題を発見し解決する力（生徒→生徒）</p>	<p>「課題を発見し解決する力」が、将来を生きていくために最も重要な力であると考えている。これまでリーダー育成や「生徒自治」について重点的に取り組んできたことを生かし、生徒主体の生徒会活動や部活動が運営できるようにすることを目指している。 生徒の手によって、3年生から1、2年生に受け継がれてきた南中生徒文化を内容面からも、質の面からも向上させていきたいと考えている。</p>
<p>d まちづくりへの協働・貢献（地域⇄生徒）</p>	<p>中学生も地域の一員として地域づくりに貢献する中で、地域の方々と中学生が交流していけば、地域への愛着も増し、将来自分の住む地域について考えて行動できる大人になると考えている。高取・南部まちづくり協議会、高浜市文化協会等、地域の諸団体からの協力は、南中学校にとって貴重な財産である。ここ数年で、高取まちづくり協議会、高浜市ロータリークラブ、NPO 法人アスクネットと協力団体は広がってきている。さまざまな地域の支援者に本校が支えられていることを教職員、生徒共に自覚し、支援や活躍する場を提供していただいていた立場から、生徒からはたらきかけ、積極的に関わりを求める立場へと転換していきたい。</p>

本年度、特に重点的に取り組むことに対する考え方

<p>☆特別な支援を要する生徒への支援・指導</p>	<p>軽度の発達障がいをもつ生徒、日本語以外の母語をもつ生徒が増加しており、学校生活や学習における特別な支援・指導のニーズが高まっている。個々の生徒が抱える困り感を低減し、安心して学校生活を送れるように、通級教室、ポルトガル語が話せるSSの積極的な活用を図っていく。</p>
<p>☆勤務時間の縮減</p>	<p>長時間に及ぶ勤務時間外労働が常態化しており、人的措置がなされない中での勤務時間削減は限界がある。管理職から示されること以外にも業務の中に削減、縮減できるものがないかを、教職員自身の目で見直し、具体的な提言ができるようにする必要がある。</p>

中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標	令和 元年度	☆取組指標 ○成果指標 (予算関係)	評価基準		
						達成値 目標値(A基準)	観点別 評価	総合
a	授業力 向上	<p>◇生徒目線に立った「南中学習スタンダード」の質を高める。「学び合い」を定着させ、「聞く力」を</p> <p>1 南中学習スタンダードを意識した授業実践に計画的に取り組み、「聞く力」に重点を置いて授業実践を振り返る。</p> <p>2 主題研の4部会毎に「学び合い」の視点で主題に沿った単元を構想し、授業実践する。</p> <p>3 授業参観者用シート、「授業だより、授業メモ」で南中のめざす授業を示し、相互参観・執筆を通じて授業力を高める。</p> <p>4 目指す生徒像を教員と生徒が共有して授業に臨むことができるように、「手引き」を作成して浸透を図る。</p>	<p>○自分の思いや考えを発信する(深い学び)</p> <p>4段階 生徒がもちよった考えを基に、話し合いが成立し、生徒の思考に深まりができた。</p> <p>3段階 多くの生徒が根拠を示しながらの話し合いに参加し、思考に広がりが出てきている。</p> <p>2段階 一部の生徒の発言は活発だが、話し合いが広がりや深まりがない。</p> <p>1段階 話し合うために必要な知識等が習得できていない。</p> <p>○基礎学力の習得</p> <p>4段階 基本的な知識や基礎的な技能を、仲間と関わりながら習得したり、互いに学び合いながらクラス全体で身に付けていこうとする。</p> <p>3段階 基本的な知識や基礎的な技能を、繰り返し書いて書いたり、声に出したりしながら自ら進んで身に付けようとする。</p> <p>2段階 基本的な知識や基礎的な技能を、教師が主導しながら身に付けようとする。</p> <p>1段階 学びに対する意欲が見られず、基本的な知識や基礎的な技能を身に付けようとする姿が見られない。</p>	<p>○南中学習スタンダードの中の「聞く」「話し合い」に関するアンケートの「はい」「概ね」の全体に占める割合</p> <p>・生徒教師のアンケート結果(はい、概ねの合計値)</p> <p>A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 59%未満</p> <p>○教師の授業参観シート</p> <p>A評価の割合(2.5点以上)</p> <p>・教師の相互評価</p> <p>A: A評価 70%以上 B: A評価 50%以上</p> <p>☆教職員研究実践評価(論文集: 公費40,000円)</p> <p>・教育研究論文</p> <p>A: 応募 10本以上 B: 応募 9本以下</p> <p>☆授業の「手引き」の発行数</p> <p>A: 発行 5回以上 B: 発行 4回以下</p> <p>○中学校入学時(100)と比べた生徒の学力検査の割合</p> <p>(NRT・知能: 公費691,500円、私費<理社>403,200円)</p> <p>※検査費用 1教科 10円値上</p> <p>・NRT</p> <p>A: 110%以上 B: 100%以上 C: 90%以上</p> <p>○NRT教科別得点分布</p> <p>・職員による分析結果</p> <p>NRT 偏差値</p> <p>A: 51以上 B: 50以上 C: 50未満</p>	<p>教師アンケート</p> <p>68.5</p> <p>80</p> <p>生徒アンケート</p> <p>74.4</p> <p>80</p> <p>参観シート集計</p> <p>66.7</p> <p>70</p> <p>市論文応募者</p> <p>9本</p> <p>授業だより数</p> <p>46回</p> <p>学力検査 入学時との比較</p> <p>2年生</p> <p>100.2</p> <p>3年生</p> <p>100.2</p> <p>国語 社会 数学 理科 英語</p>	<p>C</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B C A B B</p>	<p>B</p>	

中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標		令和 元 年度	☆取組指標 ○成果指標 (予算関係)	評価基準		
							達成値 目標値(A基準)	観点別 評価	総合
b 学級経営力の向上	◇級訓を核とした学級経営を行い、一人一人の個性を生かしながら、帰属意識、高い有用感を感じられる学級集団を形成する	1 級訓を核とした学級の「仲間づくり」の様子と経過を、学級掲示に反映する。 2 応援合戦、合唱コンクールをはじめ、学校生活全般において級訓を意識した取組、振り返り、評価を行う。 3 不登校生徒の現状と指導方針を共有し、学校復帰、学級復帰に向けた支援をみなみ部会を中心に組織的に展開する。	授業 ○自分の思いや考えを発信する (深い学び)	4 段階	生徒リーダーを中心に、学級の全員が自主的に運営に参画することができる。	☆「仲間づくり」の様子、経過がわかる学級掲示がされている。 ・学級掲示 A：全学級（18学級） B：17学級以下 ○「級訓」「学級」に関するアンケート結果の「はい」「概ね」の全体に占める割合の平均 ・生徒教師アンケート A：80%以上 B：70%以上 ○学年、学級担任、分掌担当による生徒の振り返り ※生徒アンケートと記述内容より ○学級掲示 (カーター 400,000 円、感光体・ドラム 172,000 円) ○出席率 ○無遅刻率 ○長期欠席者率 A：全国平均(3.48)以下 B：県平均以下	学級掲示 全学級実施 教師アンケート 90.0 80 生徒アンケート 58.0 80 出席率 98.0 無遅刻率 98.2 長期欠席率 2.1	A A C A A A	A
				3 段階	教師の支援のもと、室長、団長等の生徒リーダーが中心となって、話し合い活動ができる。				
				2 段階	グループの中で、司会等の指示を出せば、自分の思いや考えが正直に話せる。				
				1 段階	グループになっても、自分の思いや考えが言えない。				
				○仲間づくりを意識した学級経営					
	支 特 援 別 な 支 指 援 導 体 制 要 の 確 立 生 徒 ・ 充 実 の	1 通級指導のあり方を研究し、南中学校にふさわしい通級指導体制を確立する。 2 外国籍生徒の現状を把握し、市通訳、SSを活用しながら困りにきめ細やかに対応する。	困 り 感 を 低 減 す る 指 導 ・ 支 援	4 段階	特別な支援を要する生徒が、通級指導や通訳、SSによる指導・支援により困り感を低減できる。	☆担任、教科担任からの支援・指導の申し出 ・指導・支援の要請 該当生徒数 ・通級、みなみ、日本語支援の担当への協力 アンケート(満足、概ね 満足の割合) A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：50%以下 ○該当生徒の満足度 ※生徒、担当者への聞き取り	【通級】 1年：2名 2年：1名 3年：2名 【外国籍 生徒支援】 1年：2名 2年：1名 3年：2名 教師アンケート 95.0 80	A A A	A
				3 段階	特別な支援を要する生徒が、困り感の解決の場として通級教室、市通訳、SSを認識している。				
				2 段階	特別な支援を要する生徒の居場所が確保できている。				
				1 段階	市通訳やSSが特別な支援を要する生徒の困り感に対応できない。				

中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標		令和 元 年度	☆取組指標 ○成果指標 (予算関係)	評価基準			
							達成値 目標値(A基準)	観点別 評価	総合	
c 集団の中で、生徒自身が課題を発見し解決する力	◇「生徒自治」の精神を継承し、リーダーを中心に生徒主体で計画・運営・評価しながら活動できる機会と場を保障する	1 外部団体、小学校と連携したリーダー研修会を運営し、部長会へ繋げる。 2 生徒議会・生徒総会を実施させ、室長会や委員会の生徒と生徒会役員の連携を図る取組を取り入れる。 3 「ファシリテーション」の技能を生かし、生徒の自治活動やグループ活動の支援に生かす。 4 学年目標の達成に向けて室長会を運営し、決定した諸取組を学級へと広げていく。	○ 主 プ 体 的 に エ 動 ク ト 活 動	4 段階	生徒会スローガンを軸に、生徒会役員や委員会の生徒が、互いに連携し合っ て常時活動や生徒会行事を企画運営し 学校全体にはたらきかけている。	○リーダー研修会参加生 徒に対するアンケート記述 ・参加小学生のアンケート A: 活動のねらいを達 成できている記述割合 A 80%以上 ・各種アンケート結果 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 ・参加者の記述より ○研修会後の参加生徒の 活動追跡調査、教師の 見取り (中学生38人、職員10人、 小学生 32人、職員5人) 旅費: 公費255,000円 (宿泊69,600円、交通費 (バス) 97,200円 県費旅費16,950円、私 費92,640円<食事等>) ○生徒会活動に対する アンケート A: 活動のねらいを達 成できている記述 割合80%以上 ○「南中祭」に関わる アンケート結果 A: 「はい・概ね」の 全体に占める割合 割合80%以上 ○リーダーに関するアンケート A: 「はい・概ね」の 全体に占める割合 割合80%以上 ☆学年の目標達成に向け た室長会の開催 ・室長会の議題 学年の問題について A: 生徒からの提案で 話し合った B: 教師からの提案 で話し合った C: 話し合わなかった ○室長、担当教員の振り 返り	小学生アンケート	A	B	
				3 段階	生徒会スローガンを軸に、生徒会役員 や委員会の生徒が、各領域でアイデア を出し合っ て常時活動や生徒会活動を 企画することができる。		参加生徒アンケート	A		
				2 段階	生徒会役員や委員会の生徒が、生徒会 活動や行事の意義を見だし、活動を 考えることができる。		教師アンケート	B		
				1 段階	生徒会役員や委員会の生徒が、生徒会 活動や行事の意義を考えていない。		教師の見取	B		
			○ よ り よ い 学 年 を 目 指 す 室 長 会	4 段階	学年のリーダーが自分たちの学年の問 題を見だし、改善に向けて具体的な 方策を立て、主体的に学年全体に働き かけることができる。	教師アンケート	85.8	A		
				3 段階	学年の問題について解決のための方策 を考え、実行に移すことができる。	80				
				2 段階	学年の問題の解決のために教師が示し た解決策を実行することができる。	生徒アンケート	58.3	C		
				1 段階	現状に満足し、学年の問題が認識でき ていない。	80				
							教師アンケート	70.0		B
							80			
				生徒アンケート	86.4	A				
				80						
				学年主任アンケート	1年生	A				
				2年生	A					
				3年生	A					

中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標	令和 元 年度	☆取組指標 ○成果指標 (予算関係)	評価基準		
						達成値 目標値(A基準)	観点別 評価	総合
d まちづくりへの協働・貢献	◇地域と協働してまちづくりと地域貢献の連携強化を図る。生徒の	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会、生徒会が、外路ボランティア活動、防災訓練を計画運営・参画する。 資源回収収益金の使い道を決めるとき、地域への貢献方法を考えさせる取組を試みる。 スマホ対策、リーダー研修会において地域と協働する機会を継続する。 ホームページ、ブログ等で学校の方針、活動のねらいと生徒の様子を積極的に情報発信する。 	<p>○通ボシラたン地テ域イ貢ア献活動を</p> <p>○めよざりすよ情い報南発中信を</p>	<p>4段階 進んで参加し、心のこもった活動をする。参加する大人と一緒に活動できる。</p> <p>3段階 進んで参加し、まじめに活動をする。</p> <p>2段階 参加者数は多いが、まじめに活動できないものもある。</p> <p>1段階 参加者数が少なく、嫌々やらされている。</p> <p>4段階 ホームページを見て協力の申し出がある。</p> <p>3段階 各種たよりやホームページに目を通す保護者や地域の方が多い。</p> <p>2段階 各種たよりやホームページの更新等、情報発信を積極的に行う。</p> <p>1段階 各種たよりが保護者の手に渡らずホームページもほとんど更新されない。</p>	<p>○ボランティア活動の参加生徒数 A: 全校の60%以上 B: 全校の50%以上 C: 全校の49%未満</p> <p>○ホームページに関するアンケート結果 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上</p> <p>☆スマホ対策事業、リーダー研修会に対する参加者の振り返り、地域関係者の感想 (南部・高取まち協・高浜ローリー310,000円)</p> <p>○学校へののべ協力者数 A: 500人以上 B: 400人以上 C: 300人以上</p> <p>○ブログ閲覧者数 1日平均 A: 200以上 B: 100以上 C: 100未満</p>	<p>生徒アンケート 88.2</p> <p>80</p> <p>教師アンケート 34.3</p> <p>80</p> <p>保護者アンケート 55.0</p> <p>80</p> <p>資源回収、夏休除草作業ドライブスルー資源回収等</p> <p>修学旅行期間中3日間平均728人</p> <p>オリ合宿中2日間平均377人</p> <p>体育大会当日295人</p> <p>南中祭翌日179人 <参考> 平日5月31日170人</p>	<p>A</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>A</p>	B
	勤務時た間取縮減の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善委員会を立ち上げ、職員自らが業務を見直し、削減、縮減の提案をする。 地域団体の代表者やPTA役員等を通じて地域、保護者に学校の実情を発信し、勤務時間縮減の取組について理解の促進を図るとともに、協働して取組を推進する。 	<p>業務の削減・縮減</p> <p>4段階 業務改善委員会の提案により業務が改善され在校時間短縮につながる。</p> <p>3段階 業務改善委員会の提案により業務が改善されたが在校時間短縮にはつながらない。</p> <p>2段階 業務改善委員会の提案により業務改善されたが在校時間が増加する。</p> <p>1段階 業務改善委員会の提案がなく業務改善されず在校時間が増加する。</p>	<p>☆業務改善委員会実施回数 A: 3回以上 B: 2回 C: 1回 D: 0回</p> <p>○業務改善の提案数 A: 20以上 B: 10以上 C: 5以上 D: 4以下</p> <p>○在校時間 昨年比総時間数 ・9月～12月 R2 / 261.0時間 H30 / 272.5時間 A: 10%以上減少 B: 10%未満減少</p>	<p>2回実施</p> <p>5個 給食実施簿 復命書の廃止 校内アンケートのマークシート化</p> <p>約4%減</p>	<p>B</p> <p>C</p> <p>B</p>		

後期の分析結果・解釈

<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> 「聞く力」の伸長を図る取組を進めてきた結果、教師、生徒ともに意識の高まりがうかがえる。すべての公開授業について、教師同士、教師から生徒の評価を継続して行ってきた成果であると考えられる。 全体研授業の際には、部会ごとに協議が活発に行われていた。研究推進の3部会を複数教科で構成したことにより、教科の枠をこえて「授業づくり」について理解を深めることにつながった。 	<p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果からは、「級訓」を核とした学級づくりについて、生徒の意識が前期から大幅に低下し、教師との意識の乖離が大きいことがうかがえる。目標の設定、共有、振り返りの仕方に不十分な面がある。 不登校の状況に大きな変化は見られないが、個々の生徒が目標をもって生活ができるようになってきている。担任、学年やみなみ教室担当者が粘り強く支援を継続してきた成果であるといえる。 	<p>c</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒自身が課題を解決する力」の育成に生徒会、室長会の取組が大きく寄与している。特に室長会の取組については、アンケート結果から学年に定着していることがわかる。 生徒会が主体となる学校行事以外の活動において、課題解決力の育成という視点が乏しい。課題から目標を設定していないため、達成までのプロセスが不明確になっていると考えられる。また、教師の側にファシリテーターとしての意識が依然として低い状況も関連している。 	<p>d</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域貢献」がキーワードとなり、部活動や総合的な学習での取組に広がり、地域の一員としての生徒の意識も高まっている。 ボランティア活動への参加率は高いが教師の側に「参加させるまでで終わり」という意識がある。 学校からの種々の情報発信に対し、魅力的なものにしようという教師の意識が低い。発信した情報に対する反応がつかみにくいという面が関係しているのではないかと考える。
<p>・本年度は経営展望に掲げた「南中文化の向上」をめざして取組を進めてきた。授業や生徒会活動などの面で、徐々に成果がみられはじめている。一方、目ざす生徒像である「～人のために～ 一生懸命やってみようと思える生徒の育成」という意識が、教師、生徒ともに薄れてきている。常に目標を意識しないと個々の取組が関連し合って成果を上げていくという姿につながっていかない。学校全体としてのこの傾向が、学級経営やリーダー以外の生徒が日常的に関わる諸活動においても顕著である。</p>			

次年度の方針・方策の方向性

<ul style="list-style-type: none"> これまでの取組を進め方の面で見直し、学校教育目標の本質的な部分の達成に向けて、段階的に取組を進めていく。 市教委研究委嘱2年目にあたることから、研究主題に基づいた授業を展開し、成果を蓄積していく。 教員相互の「学び合い」が質の面で一層深まるように、研究組織の機能を向上させ、授業力の向上につなげていく。 生徒自身による課題解決力の育成を目指し、学校行事、学年行事・活動の目標設定や評価の視点を明確にし、順位などの結果のみにとらわれない達成感、満足感を教師、生徒共に感じられるようにする。 地域との連携をいっそう密にし、生徒が意欲をもって参加できるように活動の内容や方法の見直しを図る。 			
<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題のもと、全教員が実践を行い、成果と課題を明らかにする。 公開授業、全体研授業が教員の授業力向上に結びつくように、指導と評価の充実を図る。また、授業づくりにおける教員相互の学び合いを促進する研究組織を構築する。 授業で目指す生徒像を教員と生徒が共有しながら授業に取り組めるようにする。 	<p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> 「級訓」「学級目標」に基づく学級集団づくりという視点をいっそう明確にするとともに、継続的、段階的な評価・振り返りをしながら学級集団の質を高められるようにする。 室長会、生徒会、各委員会の取組と学級集団づくりが同じ方向性をもって進められるように、学校としての目ざす生徒像の意識化を図る。 不登校生徒に対して、多様な指導、支援ができるように、研修の充実を図る。 	<p>c</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会行事、学年行事をはじめ、学校生活のあらゆる活動を「生徒自治」の観点で見直し、段階的に支援しながら活動を生徒の手に委ねていく。 生徒議会の役割として、学校の諸問題の解決を付加し、学級、学年、委員会と連携した取組を進める。 リーダー研修会をファシリテーターとしての教師の役割を再確認する場と位置づけ、ファシリテーション力向上を図る。また、リーダー研修会参加生徒に継続的に支援が行われるような体制づくりを行う。 	<p>d</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動が円滑に行えるように、地域と学校との情報交換を密にするともに、地域、学校双方の活動の見える化を図る。 学校からの情報発信のあり方を見直しと共、発信したことに対する評価を得られる仕組みづくりを行う。 学校関係者評価委員会、南中応援団のあり方を見直し、地域、評価委員、保護者の声を学校経営に反映しやすくする仕組みづくりを行う。

自己評価を踏まえての次年度の重点目標（案）※↓の上は31年度の重点目標 太字は次年度の重点目標（案）

<p>自立した大人になるための基礎づくり —南中文化の向上—</p>	
<p>a 授業力向上</p> <p>「南中学習スタンダード」を定着させ、「聞く力」の伸長することで「学び合い」の質を高めていく。</p> <p>↓</p> <p>「学び合い」を通して学ぶことの達成感、充実感を感じさせ、将来の自立した学びにつながる授業を展開する。</p>	
<p>b 学級経営力の向上</p> <p>「級訓」を核とした学級づくりを行い、一人一人の個性を生かしながら、帰属意識、高い有用感を感じられる学級集団を形成する。</p> <p>↓</p> <p>「級訓」「学級目標」を明確にし、一人一人の個性を生かしながら、集団としての成長につながる学級経営を行う。</p>	
<p>c 生徒自治力の向上</p> <p>「生徒自治」の精神を継承し、リーダーを中心に生徒主体で計画、運営、評価しながら活動できる機会、場を保障する。</p> <p>↓</p> <p>「生徒自治」の精神を継承・発展させ、学校生活全般にわたって、リーダーを中心に生徒主体で計画、運営、評価しながら活動できる機会、場を保障する。</p>	
<p>d まちづくりへの協働・貢献</p> <p>地域と協働してまちづくりに貢献することで、生徒の有用感を高めるとともに、学校と地域のさらなる連携強化を図る。</p> <p>↓</p> <p>まちづくりへの生徒の主体的な関わりの場を保障し、地域と協働して活動する中で、地域の一員としての自覚を高める。</p>	